

令和5年10月3日

保護者の皆さんへ

しらぎく幼稚園
園長 東海林 肇

園長だより「かけはし」

国土交通省認定の置き去り防止装置「かくにん君」を8月にバス4台すべてに設置しました。今まで通り先生方が座席等の確認を行い、その後運転手さんもバスを停止させると「車内点検を行ってください」という音声が行くので車内を点検します。車内確認後最後尾にある備え付けの点検ボタンを押すと放送はストップして点検終了です。最後尾までいかず点検ボタンを押さないままバスから離れると10分後に車外スピーカーから大音量で「車内点検が完了していません」と点検を促す警告アナウンスが流れ続けます。この機器を設置したことでより一層事故防止ができます。私たち教職員は、凡事徹底をしながら、子どもたち一人一人の様子を見守っていきたいと思います。



「運動会の時期になると思い出すこと」

毎年、運動会の時期に、演技を参観していると、自分が小学生だった昭和時代の運動会のことを思い出してしまいます。特にリレー種目は花形種目でした。その中でも各通学団ごとのリレーは保護者の応援もすごく、今と違い、子供会なるものを母体に全員参加のラジオ体操、夏祭りなど地域のつながりが非常に強かったため、選手決め、練習などはかなり燃えていました。ですから運動会当日、入場門から地区ごとのプラカードを掲げて入場すると保護者からの応援はすごいものがありました。そしてピストルの音でリレーが始まると応援もピークに達し、その応援が凄まじい前をバトンを握って疾走するのはまさに高揚感の頂点でした。当時の子どもたちも少しでも速く走るためにどうしたらいいかということを考え、男女関係なくほとんどの子どもが靴を脱いで、裸足で走る方法を選択していました。要するにいかに足を軽くするかの工夫でした。とんでもない考えでしたが何も疑うことなく裸足を選択していた自分がいました。今、考えると軽いことは間違いありませんが、裸足で運動場を走ると、結局足の裏の皮が破れたりして血が滲み、危険です。しかし、当時はそんなことは全く大したことではなかったように考えていました。ただ、けが防止のために運動会前には、運動場の小さな石をみんなで徹底的に拾って、きれいにしていたことを思い出します。何十年も前の運動会を思い出しながら、目の前の子ども達の足もとに目をやると、色とりどりの鮮やかな色のシューズを履いていました。中には瞬足なる軽い靴もあるみたいでいい時代になりましたね。それにつけても馬鹿なことをしていた時代だったなといくつになっても懐かしく思い出されます。